

平成 12 年 9 月 14 日 水戸・仰天会会報 寄稿文より

## 会津鶴ヶ城の危機を救う 水戸諸生党の知られざる行動

会津出身 阿部 富八

慶応 4 年 8 月 23 日は会津藩にとっては忘れ得ぬロンゲストデーとなった。藩境の母成峠を突破した西軍の精銳 3000 は、戸ノ口原、滝沢峠を越え 23 日早朝、遂に若松城下に殺到するに至った。

若松城（鶴ヶ城）では、婦女子の入城を告げる早鐘が鳴り響き、午前 8 時頃早くも敵の侵入に備えて、各門は一斉に閉じられた。城下にある 16 の外郭城門は守備兵が必死にい防備を固めて抵抗したが、多くの会津兵は越後口、白河口等の藩境の防備に出ていて、守備兵は全く手薄であったうえに、西軍の猛攻を受けて各門とも激戦のすえに、次々に、突破されつつあった。

若松城の正面玄関にあたる甲賀町各門の攻防は、この日最大の激戦地で、会津藩家老・田中土佐、同・神保藏之介は、ここで壮烈な自決をしている。

この時期、北越各地の戦線から、会津入した水戸諸生党市川勢（400 名とも 600 名とも言われている）は、城下の名刹瑞雲山興徳寺（豊臣秀吉が「奥州仕置」のため天正 18 年に会津来訪の折、4 泊した臨済宗妙心寺派の寺院）ほか、武家屋敷に宿陣、（宮崎十三八氏談）、このうち 150 名は会津藩西郷頼母に率いられ冬坂（背炙山）の守備についていた。

8 月 23 日を期して、水戸諸生党市川勢による本格的な救援が始まりました。甲賀口郭門の戦いにも参加したのではないかとも考えられますが、事実の資料がなく実際のところは不明です。

会津側の資料に、「水戸藩諸生党は西軍が若松城下に殺到するとの報と同時に、若松城三の丸に入城、3 門（南門、北方埋門、東門）の守備に就き敵を撃退、城の危急を救い会津藩を感激させた。

8 月 26 日、西出丸防備

8 月 29 日、会津藩の猛将・佐川官兵衛隊に属し、城西の長命寺方面に出撃した。

（籠城戦後の市街戦では最も激烈な戦いとなった「長命寺の戦い」）

9 月 3 日、城西、花畠門、南町門、等で大いに戦い、米代四ノ丁の栃木邸を屯営として周辺に活躍

9 月 5 日、佐川隊と共に出陣し本郷から大川を渡河して、材木町西裏に集結していた西軍を撃滅、「秀長寺裏、住吉河原の激戦」と呼ばれている東軍の大勝利だった。城外で水戸諸生党は奮戦し、勇名を馳せた。

9 月 7 日、佐川隊が、水戸諸生党を合わせて 1000 名を率い、面川、弥五島、大内、永野井、高田などの各地で戦い、食糧、弾薬を集めてお城へ届けたが、その後、田島に終結した。とあります。

平成 12 年 5 月 28 日午前 11 時、私達は、飯盛山麓「白虎隊記念館」前で行われた「水戸藩諸生党鎮魂碑」除幕式に参加させて頂き、全会津吟剣支部連合会々長の大島雄州先生が、この日の為に作詞してくださった「戦後述懐」の詩吟奉納を感動しつつ拝聴しました。

水戸藩援軍躍動 鶴城墨石其勲蔵

「水戸武士の奮戦が石垣に刻まれて居るように感じられる」と現在の会津の方々も、幕府方として犠牲を惜しまず力戦した水戸藩士を限りなく讃え、感謝していただいております。

会津戊辰戦争での一ヶ月の籠城戦、市街戦を水戸藩士の中には、幹部の大森弥三左衛門はじめ相当数の戦死者がでています。戦後に埋葬された阿弥陀寺（1281 体）、長命寺（145

体) の「戦死墓」には、何人かの水戸藩士が入っていると想像されます。ただ、大変残念なことに、何日、何処の戦いで、どうゆう状況で亡くなったかは史書類にはこれまで書かれたものは無く、相当な空白部分があり、この面の補完が今後の課題と思います。

水戸も会津も幕末から維新にかけて国を想い郷土を愛するがために、それぞれの立場で自分の信念に命をかけた人々を鎮魂し、後世に語り継いでゆくこと、そして、正しい事実を学び正しい認識を現代に生きる若人に、未来を生きる孫・子に伝えることが、私達の責務のように改めて感じた次第であります。